



みなみっ子

20号

学校教育目標

〇かしこく

〇やさしく

〇たくましく

令和7年10月27日(月)

南城市立大里南小学校

文責 校長 與儀 毅

子どもの主体性・思考力について

子どもたちの100の言葉」より



左の写真はイタリアの小さな街のレッジョエミリアでの幼児教育施設の実践の一コマです。

右上から始まります。一人の幼児（まだ言葉でのコミュニケーションがでな）と保育者が時計のカタログを見ています。右下の写真はその内の一つを指さし、何か言いたそうにしています。その次の左上の写真は、幼児が保育者の腕にカタログと同じような時計を見つけています。そこで保育者は幼児の耳に時計を当て、秒針の音を聞かせています。（今の時計は秒針の音はしないと思いますが、昔は秒針の音のする時計が主流でした。）この連続写真の最後をご覧ください。幼児は何をしていますか？カタログに耳をあてています。おそらくこの幼児はカタログからも音が聞こえると思ったのでしょう。

この写真を紹介しているレッジョエミリアの実践は世界的に注目され、日本でも大きな影響を受けています。「子どもは白紙だから大人が教える」という考え方から「幼い子どももしっかり思考している。子どもは白紙ではない」という考えへ移行しています。大切なのは幼児の耳に時計をあてた保育者の行動です。私たち大人が子どもたちへ、どのような働きかをするかだと思います。子どもたちの好奇心が更に高まるような、大人の働きかけが重要だと思います。

おしゃべりのススメ



子どもたちの語彙力（ごいりょく）について考えてみます。本校だけでなく、沖縄県の子どもの語彙力不足について語られることがあります。県外の子どもたちと語彙の差があると言われることもありもあります。そのことが学力差にも表れているとも言われます。

では語彙力を高めるために何が必要でしょうか？まず読書が考えられます。もちろん読書も大切な一つです。全国的にも、そして子どもたちだけで無く大人も活字離れが言われています。

それ以外に「おしゃべり」が語彙力を高めることにつながると言われています。家庭でどれだけおしゃべりをしているかで、子どもの語彙の量が違ってきます。保護者の皆様も仕事で忙しく疲れている状態で子どもたちとのおしゃべりを求められても……。となりそうですが、1日に15分程度でも子どもの趣味の話や、夢中になっていることについて話を聞いてみて下さい。



保護者が学んでいる姿が子どもの刺激になる

保護者の皆様へ、お子さんは家で進んで家庭学習をしていますか？

自分自身の良さを伸ばすための学習や、課題を克服するための学習を進んでやっていますか？



なかなか自分から進んで学習に向かう状況をつくることは簡単でないかと思います。

そこで一つの事例を紹介します。保護者の皆様の中にも、仕事などのスキルアップのため、資格をとったり、研修を受けたりする方々も少なくないと思います。その資格試験に向け、勉強することを、子どもが学習している側と一緒に取り組んでいる方がいます。

その家庭では、子どもに対し「勉強しなさい」とは言わず、保護者も勉強しているので、自然と一緒にとなりで学習をしていたそうです。



何かの目標に向け取り組んでいる保護者の姿が、子どものやる気にスイッチを入れた事例です。参考になりますね。